

岸和田市「道の駅」基本構想



岸和田市

目 次

	ページ
1. 「道の駅」の整備の目的	1
2. コンセプト	2
3. 立地計画について	3
4. 「道の駅」の機能について	4
5. 「道の駅」のゾーニングについて	8
6. 「道の駅」の位置について	9
7. 「道の駅」と周辺の連携について	10
8. 「道の駅」の施設機能図	11

1. 「道の駅」の整備の目的

岸和田市では、岸和田ならではの「人情・伝統・ふれあい」を内外に伝え、岸和田の魅力を体感し、知ってもらうことが必要であると考えています。

そのため、「情報発信機能」「地域連携機能」「休憩施設」などを併せ持つ「道の駅」を整備し、これらの機能を活かして「岸和田らしさ」を表現することで、地域振興を図り、岸和田市の活性につなげることを創造します。

岸和田市及び泉州エリアの地域資源をアピールし、地域の魅力を伝え、訪れる人々が喜び楽しむことができる「にぎわいの場」として活用することや、岸和田市の海手地区（都市部）と山手地区との交流の場として、互いの魅力を共感し、高め合うことができる環境整備を図ります。

また、不特定多数のドライバーの安全運転に寄与するために、24時間いつでも休憩を取り、必要な情報を得ることができる施設としての機能を図ります。

そして、将来の災害に備えて、救援活動の拠点となるような機能を有し、活用を図ります。

このような機能を有する「道の駅」を整備し、地域振興や情報発信など岸和田の魅力を様々な人に伝えることや、次世代に「岸和田らしさ」を継承するなど、地域活性化につながる活動拠点として活用することを目的とします。



出典：国土交通省「道の駅イメージ図」

2. コンセプト

『(仮称) 道の駅きしわだ』

～ 岸和田らしさを伝え、人々が集う空間づくり ～

- 岸和田の魅力を伝える空間
- 人々が集い、楽しみ、交流する空間
- 岸和田の資源を守り続ける空間

● 岸和田の魅力を伝える空間

岸和田市には、文化・歴史・景観や産業など、様々な魅力があります。「道の駅」に集う人々にこれらの魅力を発信することで、「岸和田らしさ」を体感し、共感してもらえるような空間づくりを創造します。

(EX) 岸和田市で感じる季節の魅力

□ 岸和田の“春”

・お城まつり ・包近町の桃畑 ・蜻蛉池公園



□ 岸和田の“夏”

・港まつり ・葛城踊り ・土生鼓踊り



□ 岸和田の“秋”

・だんじり祭り ・秋の賑わいフェスティバル
・農業まつり・牛滝川もみじまつり



□ 岸和田の“冬”

・クリスマスイルミネーション ・消防出初め式
・市民駅伝大会
・泉州国際市民マラソン ・雪の葛城山



● 人々が集い、楽しみ、交流する空間

さまざまな人が集まり、誰もが楽しめて、「岸和田らしさ」を感じることができるような交流があり、「またここに来たい」と思える空間づくりを創造します。

● 岸和田の資源を守り続ける空間

岸和田の自然や伝統、文化、産業など様々な資源は、岸和田の貴重な財産です。この貴重な財産を守り、次世代に継承していく空間づくりを創造します。

3. 立地計画について

● 「道の駅」の立地条件について

「道の駅」の機能を活かせる条件として、多くの人々が行き来し、訪れやすいことなど、広域的に人を集めることができることや、ドライバーの安全運転に寄与することなどを考慮すると、大型幹線道路の沿道が望ましいと考えます。

● 「道の駅」の立地場所について

「道の駅」の立地場所については、用地の確保が容易であることが重要となります。また、「道の駅」のコンセプトを実現するために、周辺環境との共存が不可欠であると考えます。

● 「道の駅」の予定地について

「道の駅」の予定地として、国道170号線（大阪外環状線）沿道の稲葉町地内を想定します。この場所は、岸和田市域のほぼ中央に位置し、隣接地に年間約80万人訪れる「府営蜻蛉池公園」があり、近傍に約24万人の集客がある「いよやかの郷」と連携し、「神のおわす山」といわれる神於山の自然環境と共存できるなど、交流の拠点としてふさわしいと考えます。

また、この場所は「岸和田市丘陵地区整備構想」予定地内であり、同構想の「地域資源を活かしたまちづくり」という開発コンセプトと整合しており、用地確保も可能であると考えます。



岸和田市イメージ図



4. 「道の駅」の機能について

コンセプトを実現するために、以下のような機能を創造します。

● 『情報発信機能』について

● 『情報発信機能』の創造

市内の観光やイベントなど「岸和田らしさ」を伝える情報発信や、広域幹線道路等の交通情報などを提供し、災害が発生した場合は、災害情報を提供することができる機能を有することを創造します。

「岸和田らしさ」の発信は、ポスターや展示物での紹介をはじめとして、PC 端末、モバイル端末による情報提供や、地域ボランティア等「岸和田案内人」を通じて岸和田の「人情・伝統・ふれあい」を知ってもらうなど、人と人との繋がりを重視します。

また、常に利用者のニーズを把握し、日々進化する「道の駅」を創造します。

《情報発信の条件》

- ・「岸和田らしさ」を伝えるために、岸和田文化や歴史、観光資源など、訪れる人が望む情報を的確に提供すること。
- ・様々な方法で、手軽に利用者の声を聞くことができ、反映する仕掛けを構築すること。
- ・人々が集う情報コーナーとするため、イベントなどを企画し、HP などで宣伝すること。



● 『地域振興機能』について

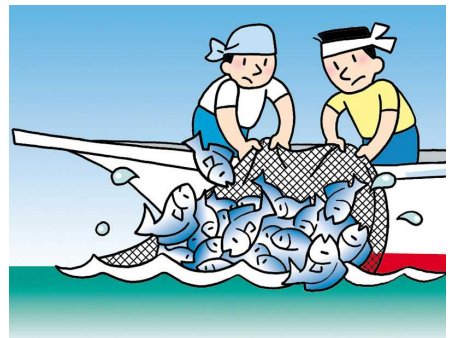
● 『地域振興機能』の創造

岸和田市には、良質な農作物や海産物をはじめとして、工芸品など様々な特産品がたくさんあります。

これら「岸和田らしさ」を伝えるために、物産店での販売や、地元食材を使った加工品や郷土料理など、その良さを解ってもらうような施設の整備を行い、良質で安全な商品性をアピールするため、単に商品を並べるだけではなく、生産者の顔やものづくりに対する姿勢を伝えることで、交流が生まれる工夫を創造します。

《地域振興機能の条件》

- ・「岸和田らしさ」にこだわり、地域の特産品を内外に伝えること。
- ・加工や製造過程を見せることで安心感や鮮度など、食の安全性をアピールすること。
- ・来訪者のニーズに応える豊富な品揃えとすること。
- ・青空市場などテント等を利用した販売に対応すること。
- ・郷土料理や伝統、文化を体験してもらえるように施設を設置すること。
- ・敷地外に市民農園を設置して、野菜や花などを収穫体験してもらうこと。
- ・「岸和田らしさ」を感じることができる食事を提供すること。
- ・ここにたくさんの人々が集まるような魅力が溢れるイベントを開催すること。



● 『休憩機能』について

● 『休憩機能』の創造

「道の駅」機能のひとつである24時間利用可能なトイレを、いつも安心・清潔で、快適に利用できるように整備します。

また、駐車場は多くの人が快適に利用できるように、道路からの出入りが容易であり、安全でユニバーサルデザインに留意した十分な広さのある駐車場を整備します。

「道の駅」は、誰もが安心して利用できる休憩施設を創造します。

《休憩施設の条件》

- ・トイレは、特に女性が満足してもらえるように、混雑時にも安心・清潔で快適に利用でき、長い時間を待つことがないよう配慮すること。
- ・身障者用駐車場は、十分な台数を有し、施設への導線ができる限り短くなるよう配慮すること。
- ・駐車場は、すべてをアスファルト舗装するのではなく、ピーク時以外は広場等に利用できるよう配慮すること。



● 『その他機能』について

● 『交流機能』について

「道の駅」は、様々な人が集い交流する場所として、「遊び」を取り入れます。老若男女すべての人が安全に安心して遊べる空間を提供し、活気溢れる場として活用することを創造します。

また、自然環境での交流から学ぶことが多くあることも忘れてはなりません。

《交流機能の条件》

- ・様々な人々に配慮した「遊び」を取り入れ、気軽に参加し、交流できるよう配慮すること。
- ・自然を楽しみ、体感することや、昔ながらの遊びを伝承するなど「古き良き岸和田」をアピールできるように配慮すること。
- ・農空間を利用した収穫体験や、農業体験など手軽に農に触れることに配慮すること。

● 『防災機能』について

計画予定地は、広域緊急交通路である大阪外環状線に隣接するため、救助活動等有効に機能するような役割や整備内容とします。

《防災機能の条件》

- ・災害時に、岸和田市民をはじめ、ドライバー等の安全確保に役立てるため、備蓄倉庫やヘリポートなど配置できるように配慮すること。
- ・広域的な観点から、災害時に支援物資等の集積場所となるよう配慮すること。

● 『環境保護』について

計画予定地は、神於山や蜻蛉池公園に隣接するなど豊かな自然環境に恵まれています。これらの自然環境への負荷を軽減し、環境保護活動の拠点となるような役割を創造します。

《環境保護の条件》

- ・自然地形を活かした土地利用とし、人工的な構造物はできる限り造らないよう配慮すること。
- ・地域の自然環境と調和するよう配慮すること。
- ・施設の機能は環境への負荷をできる限り軽減するよう配慮すること。

5. 「道の駅」のゾーニングについて

● 計画への条件整理

計画を進めるためには、以下の条件を検証する必要があります。

交通の条件

- ・ 国道 170 号線(大阪外環状線)の交通量に見合う駐車場、休憩施設を計画すること。
- ・ 大型車の進入が容易であり、十分な駐車場を確保するよう計画すること。
- ・ 国道 170 号線等の道路に対する出入口及び対向車線側からの入退場については、基本計画において道路管理者及び警察との協議を踏まえ計画すること。
- ・ 市道福田白原線等から道の駅までの道案内に配慮するよう計画すること。

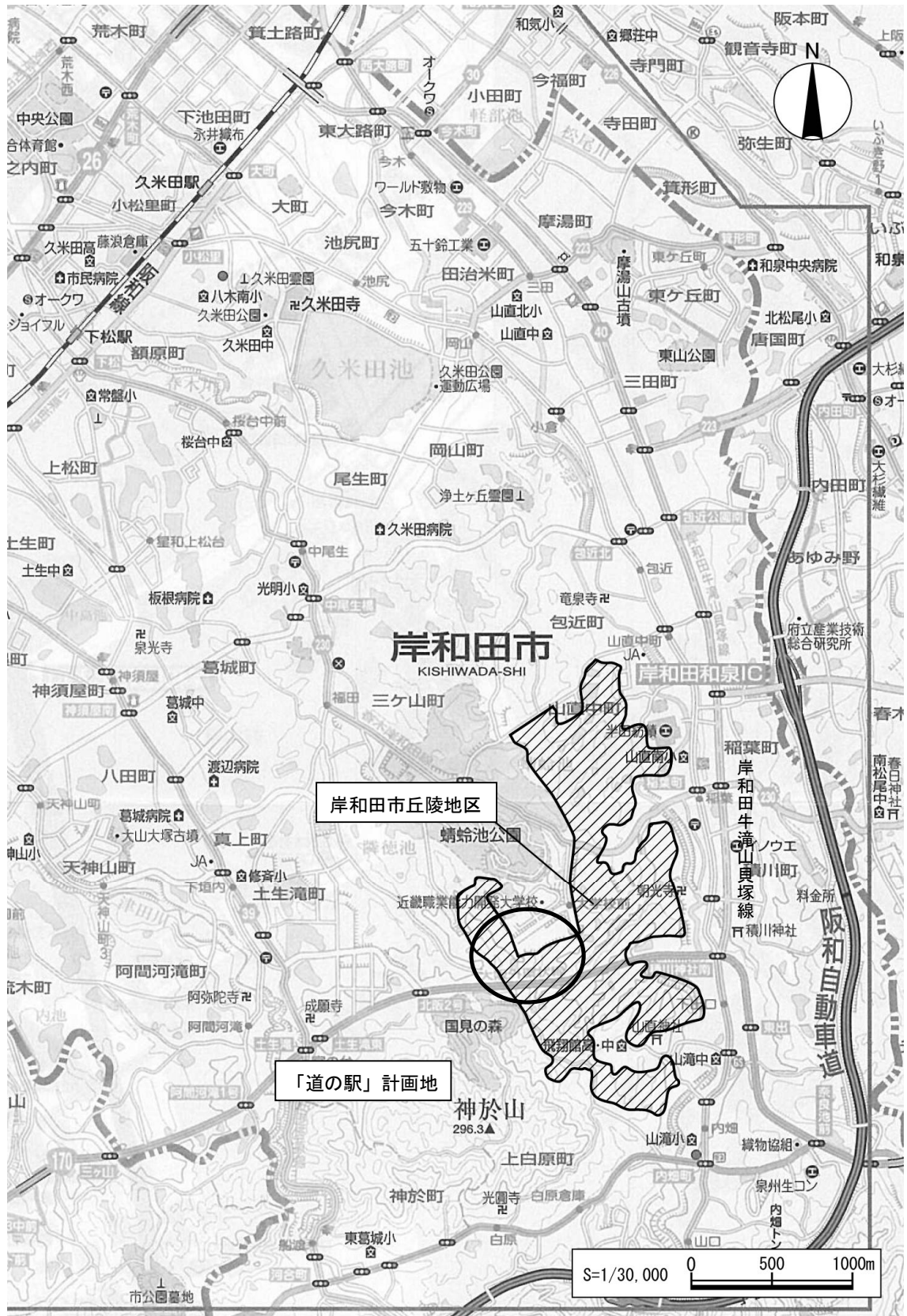
施設の条件

- ・ 投資効果を検証するためにマーケティング調査等を行い、駐車場規模、想定利用者数の算定結果を基に、各施設の適正規模を算出すること。
- ・ 国道 170 号線の通行車両から本施設が存在がわかりやすく、また、アクセスしやすい計画とすること。
- ・ 賑わいを生み出す施設を設け、来場者が利用しやすく交流の場となる計画とすること。
- ・ 地域の既存施設(蜻蛉池公園や神於山等)、観光資源や産業等との連携を考慮した計画とすること。
- ・ 開発行為に伴う必要施設を考慮した計画とすること。
- ・ ユニバーサルデザインに対応し、子供から高齢者まで幅広く利用しやすい計画とすること。

地域の条件

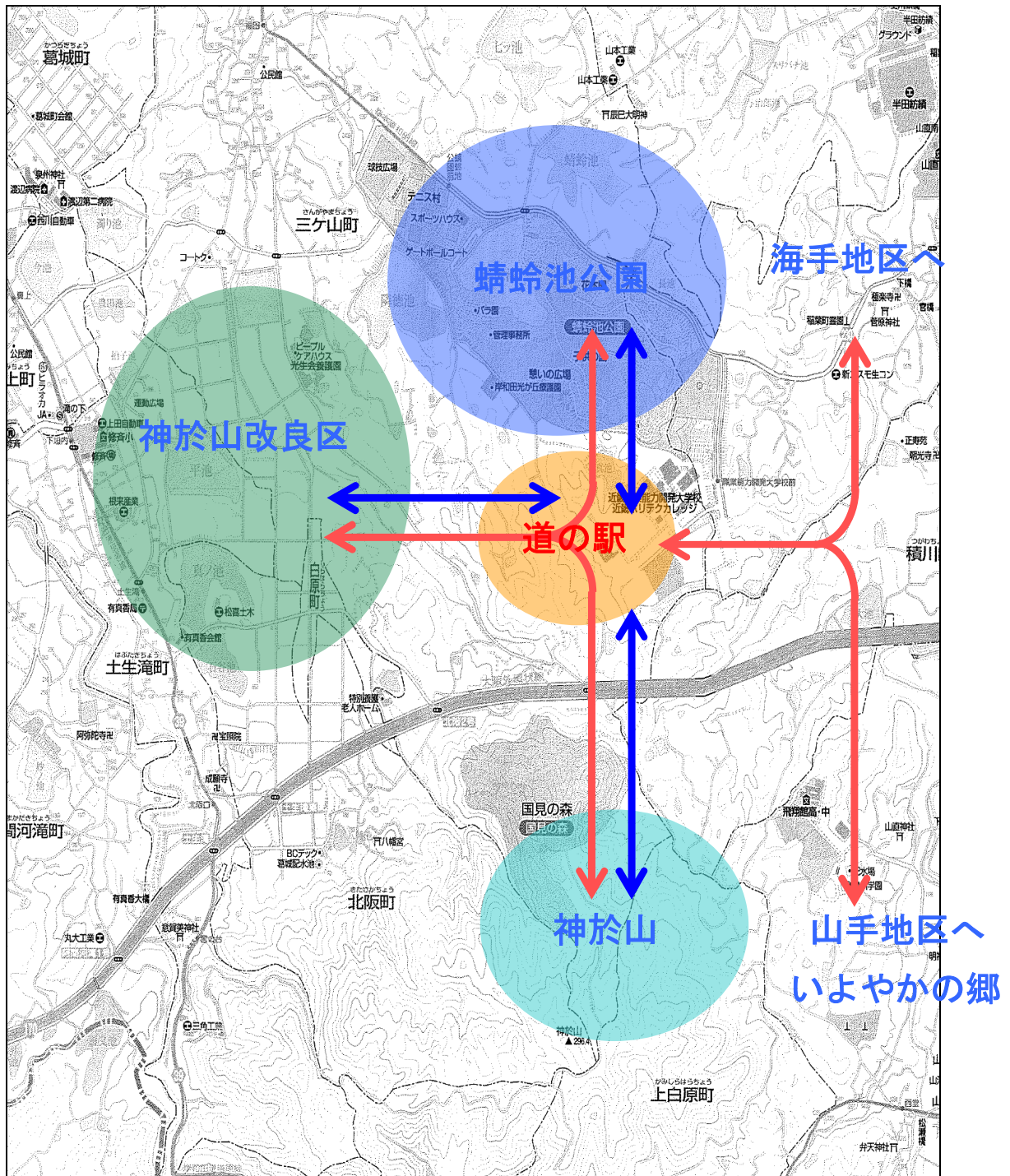
- ・ 蜻蛉池公園や神於山など自然景観と調和する計画とすること。
- ・ 自然地形を活かしできる限り人工構造物を作らない計画とすること。
- ・ 「岸和田らしさ」をアピールするように配慮すること。
- ・ 展望台からの眺望を活かすような施設配置を計画すること。
- ・ 環境保護に配慮した施設計画とすること。

6. 「道の駅」の位置について



7. 「道の駅」と周辺の連携について

(イメージ図)



「道の駅」は交流拠点として、新鮮な農作物・特産品等が「道の駅」を介して山手地区から海手地区へ、新鮮な海産物・特産品が「道の駅」を介して海手地区から山手地区へという“物の流れ”と共に“人の流れ”も導きます。

岸和田市内外の様々な人々が「道の駅」に集い、交流することで「岸和田の魅力」を伝えることができ、それが新たな魅力探訪や次世代への「岸和田らしさ」の継承につながり、地域活性化の活動拠点として波及効果を生みます。

8. 「道の駅」の施設機能図

「道の駅」施設全体の機能系統図について下記に示します。

なお、施設の位置関係を示すものであり、大きさなどは考慮しないものとする。

